2　日本一の茶産地育成

成果の要約

1　生産履歴管理システムと営農支援アプリの連携システムは，経営効率化のメリットへの理解促進とシステム活用による経営事例を紹介し，新たに６工場が導入した。
2　GAP 指導員資格取得者が増加し，全工場に占める第三者認証取得工場は 84%となった。
3　10a 当たりの粗収益は，夏茶以降の価格が低下したものの，基本技術及び欠点・欠陥茶撲滅指導により一番茶の品質が向上し，前年と同等の 32 万円となった。
4　輸出茶は，「米国向け地区管理ごよみ」と「輸出茶研究会だより」の情報提供を行った。有機茶ニーズが高まり，前年に比べ市場での出荷量は 170%と価格は 136%に増加した。
5　てん茶生産量は，過去最高の 494.9ｔ（前年比 132%）となった。
6　茶品評会では，南九州市が産地賞（全国３連覇，県５連覇）を受賞し，銘柄確立と技術の高位平準化が図られた。

1　対象

（1）南薩地区茶業振興会員　148 工場
（2）各市茶業振興会員　　779 戸

2　課題を取り上げた理由

（1）担い手･労働力不足などに対応するため，スマート農業技術の導入や GAP 実践による経営体質の強化が必要である。
（2）茶価の低迷や資材の高騰などに対応するため，新技術導入や輸出茶など新たな生産体系を確立する必要がある。
（3）消費拡大･ブランド力向上のため，出品茶への取組による銘柄確立，仕上茶の品質向上，多様な茶種への取組を強化する必要がある。

3　活動の内容及び成果

（1）スマート技術導入実証
生産履歴管理システム「茶れきくん」と営農支援アプリ「アグリノート」の連携システムについて，マニュアル改訂と連携システムを活用した経営事例を周知し，導入マニュアルによる普及を図った。その結果，新たに６工場が導入し，１工場が次年度システムを導入する。

写真１　経営事例検討（南九州市）

（2）GAP をする茶工場支援
食の安全や環境保全のため，国際水準 GAP（ASIAGAP，JGAP）の認証取得に向け，食品安全など実施基準に関する研修や，内部監査で是正及び改善指導した。その結果，新規取得は，JGAP 認証が２件，JAS 有機取得が２件，JAS 有機転換中が２件増加し，第三者認証取得工場は管内の 84%（124 工場）となった。また，「えい地区茶工場 GAP 研究会」は，会員５名が GAP 指導員資格を取得し，内部監査による是正指導及び GAP への理解が深められた。

（3）新技術導入による収益の向上
新技術導入は，土壌反転機連年効果，チャトゲコナジラミ天敵定着，ハマキ天敵防除体系の３課題を調査研究として取り組んだ。

ア　土壌反転機連年効果（断根による影響）
２年連続の土壌反転は，白色根の増加とアンモニア態窒素量がやや高く推移した。一番茶生葉収量は，土壌反転しない区に比べ 520kg/10a 確保し，断根による極端な減収は見られなかった。
品質は，全窒素がやや少なかった。二番茶の収量･品質は同等であった。土壌反転は，生葉の葉厚が薄くなり，生産者も生葉の柔らかみを感じ品質が優れたとの意見があることから，引き続き３年連続の土壌反転実証に取り組んでいる。

イ　チャトゲコナジラミ天敵定着

天敵シルベストリコバチの寄生率約６％のほ場に，7，9月の２回天敵を放飼した結果，10 月の寄生率は 12%に増加した。天敵はほぼ一定の生息量で，チャトゲが減少していたので天敵による密度抑制が期待された。

ウ　ハマキ天敵防除体系

ハマキの密度低減のため，農閑期の秋整枝後にハマキ天敵（顆粒病ウィルス）を散布した。秋整枝後のハマキの生育ステージは，ふ化後～若齢幼虫が７割を占めた。ハマキは，老齢期にウィルス感染により発病し死に至るので，次年度の密度抑制が期待された。

（４）荒茶品質向上

収益を確保のため，欠点・欠陥茶撲滅と摘採・製造の基本技術を指導した。一番茶単価は前年より向上したが，降雨の影響により乾燥不足や製茶機械の長期活用による油臭が前年に比べ増加した。10a 当たりの収益は，夏茶以降の単価が低下したものの 32 万円で前年と同等であった。一方でコストは，燃料や肥料など資材費が高騰し，厳しい茶業経営となった。

（５）輸出向け茶生産技術

地区茶園管理ごよみを米国向けに見直した。また，「輸出茶研究会だより」を作成し，随時変更される輸出茶に関する情勢や農薬情報，茶園管理技術等を会員へ情報提供した。有機茶は，前年に比べ市場出荷量が 170%，価格は 136%に拡大した。有機てん茶は，生葉と荒茶の品質関係を実証し，生葉の葉厚が薄いものほど全窒素が高く品質が優れた。てん茶の生産量は，過去最高の 494.9ｔ（前年比 132%）となった。

写真２　有機てん茶品質検討会

（６）消費・流通拡大活動支援

青年組織を対象に仕上茶研修会を開催し，品種ごとの仕上茶調整と火入れ技術を指導し，知覧茶マルシェで消費者のニーズを把握した。

写真３　品種仕上茶の消費者

「知覧茶」ブランドを確立するため，流通部会の仕上茶品質審査を行い，欠点事項の指摘と保管技術の改善を指導した。一定の品質基準をクリアした製品は 91%で，品質統一が図られた。

（７）多様な茶種の生産販売拡大

茶園管理や摘採・製造を指導し，全国茶品評会には南九州市より４部門(普通煎茶 10 kg，同４kg，かぶせ茶，碾茶）に 15 点，県茶品評会は枕崎市，南九州市，南さつま市より２部門（普通煎茶，深蒸し茶）に 12 点出品した。全国は，南九州市が産地賞３連覇（普通煎茶 10 kg）と農林水産大臣賞など特別賞を，県は産地賞５連覇（南九州市，普通煎茶）と農林水産大臣賞など特別賞を受賞し，銘柄確立と技術向上につながった。かぶせ茶は，被覆方法改善により初めて入賞し，生産マニュアルを作成した。

写真４　出品茶現地検

４　今後の課題

（１）生産工程情報管理などスマート農業の実証・普及と実需者に求められる国際水準ＧＡＰ認証の推進

（２）安定した品質・収量確保技術の普及による収益向上と輸出茶の生産拡大

（３）仕上茶の生産販売技術向上と多様な茶種の生産技術向上

５　担当した普及職員（○はチーフ）

○濵﨑，中，鎌田，矢野，東（宮ノ原）